



2020年の先も見すえて 身近な暮らしの未来を考えよう

2020年の東京五輪・パラリンピックをきっかけに、暮らしの身近な課題に目を向け、解決への道を探る。新年度からNHKでは『未来スイッチ ～ 2020その先へ』と題し、番組やニュース、ネット、イベントなどを連動させたキャンペーンを展開します。

新たな時代を迎える日本。“スイッチ”には、「行動のスイッチを入れる」「考え方ややり方を切り替えてみる」「相手の立場になって考える」という意味があります。2020の先につながるレガシーとして、暮らしやすい社会に変える解決策を視聴者と一緒に考えていきたい。「未来スイッチ」には、そんな思いを込めています。

まずは、この春から、5分と1分のミニ番組をスタート。これから1年半、様々なテーマの“未来スイッチ”をコンパクトにわかりやすく伝えてゆきます。

春のミニ番組の展開

※総合テレビで4月以後、随時放送

“エスカレーターの乗り方”の未来スイッチ

歩く人のために片側をあけることが習慣となってきたエスカレーターの乗り方。しかし、2日に一度事故がおき、障害がある人や子どもを連れた人の中には、命に関わる危険を感じる人も。海外から大勢の人がやってくる2020年へ向け、「止まって乗る」ことに“スイッチ”しようという動きが起きている。

「止まって乗りたい人たち」をサポートする活動。学生たちからは“思わず止まって乗りたくなる”デザインのエスカレーターのアイデア、JR東京駅では駅員による呼びかけも始まった。一方、「生活の速度は人それぞれ、歩くのは仕方ない」との声もある。

エスカレーターの乗り方の習慣をめぐる今を、ショートストーリーで紹介。



“命の情報”をスマホで広める ～ AED 普及へ未来スイッチ

2020年までに「心臓突然死ゼロ」をめざし、AEDの使い方をもっと普及させようとの動きが起きている。設置率は世界一高いものの、設置場所や使い方がわからず、救えた可能性がある命を救えなかったケースもある。AED財団では、スマホを使って、市民に街角で見かけたAEDの設置場所の写真や情報を投稿してもらい、少しでも早く救命につなげる、ネット時代ならではのシステムを開発、取り組みを始めた。

その他、「命を守るヘルプマークを全国に広めるには?」「災害時の避難どうする?」など、2020以後の社会を見据えたテーマを予定。

ナレーションをつとめるのは、若者に人気のお二人



声優・福山潤さん



声優・悠木碧さん

視聴者に投稿を呼びかけるWEB展開

NHK NEWS WEB

<https://www3.nhk.or.jp/news/>

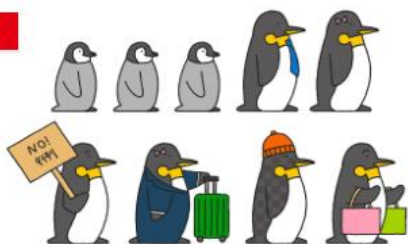
ご意見を募集

ミニ番組は、NHKのニュースサイト『NHK NEWS WEB』と連動。
視聴者からご意見を募り、寄せられた声やアイデアもミニ番組などで伝えていく。

更新情報

- ・「私のファーストペンギン日記(2) 函鑑編」の記事を公開しました。(3/9)
- ・「みんなで作るAEDマップ」の記事を公開しました。(2/1)

NEW!



私のファーストペンギン日記(2) 函鑑編 (2019.3.9)

エスカレーターの前列乗りを試した日々を報告し、みなさまの体験も募集したところ、たくさんのメッセージをいただきました。→

NEW!



AEDへのいろいろな不安をみんなで無くして、有効に活用しようというアプリが開発されました。→